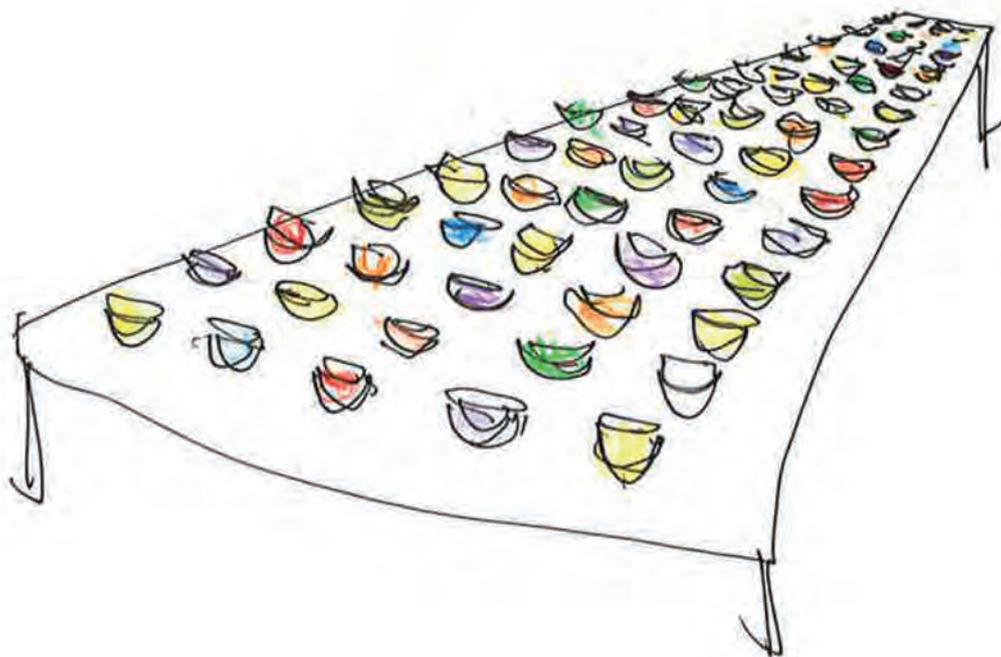


ミライコウコモクシヨク

『未来考古木色』

archaeological future in wood and color



建築家・田根剛（DGT）は、「古来から未来を考える」をテーマに「未来考古木色」の展示発表を行います。

ifs 未来研究所のメンバーで決定した、今年1年間のテーマ「不便だけれど、快適なもの」。

この研究テーマを発端に、自主研究を続けて行くうちに出会ったものは、古来400年前より受け継がれてきた「木地の山中」と呼ばれる山中漆器の伝統的な「木器」と、日本の豊かな自然から草・木・花・根を採取し、生きた色彩を染め続けてきた「草木染」でした。より便利で快適な生活の為のモノが次々と生まれる今、時間を掛け・使い・直し・伝え・受け継がれているコトを考察した結果、ヒトとシゼンとの深い関わりの先に、我々の次なる未来があるだろうと考えました。

わたしたちのそばにあるシゼンから、「日本の木」×「日本の色」を用いて実験展示を行います。

【開催概要】

会期：2014年10月25日（土） - 11月3日（月） 11:00 - 21:00（10月25日、11月3日は～20:00）

会場：ifs 未来研究所サロン WORK WORK SHOP（港区北青山2-3-1 シーアイプラザ2F）

企画：ifs 未来研究所（<http://ifs-miraiken.jp>）

制作協力：草木工房／我戸幹男商店

Profile

田根 剛 Tsuyoshi Tane / 建築家

1979年東京生まれ。2006年、パリにて建築設計事務所DGTをダン・ドレル、リナ・ゴットメと共に設立。
2006年『エストニア国立博物館』の国際コンペにて最優秀賞（2016年完成予定）、また2012年の新国立競技場国際設計競技では『古墳スタジアム』がファイナリストに選ばれるなど国際的な注目を集める。現在、フランス・スイス・レバノン・日本でプロジェクトが進行中。フランス文化庁新進建築家賞（2008）、Red Dot Award Winner（2013）、ミラノ・デザインアワード2部門受賞（2014）など多数受賞。2012年よりコロンビア大学GSAPP非常勤講師。

www.dgtarchitects.com

制作協力

山崎 和樹 Kazuki Yamazaki / 草木染研究家

草木染研究所柿生工房（草木工房）主宰。

1982年、明治大学農学研究科修士課程修了後、故父・青樹（群馬県指定重要無形文化財保持者）のもとで草木染の研究を始める。

1985年、草木染の研究と普及のために草木染研究所柿生工房（草木工房）を開設。

2002年、信州大学工学系研究科博士後期課程修了。学術博士。

2008年4月～2013年3月、東北芸術工科大学美術科准教授。

1995年より天然染色国際会議（韓国、アメリカ、インド、フランス、中国）に参加し、日本の草木染の歴史や色と技術について研究発表し、作品展示やワークショップも行っている。

<http://yamazaki-kusakizome.com>

我戸幹男商店

1908年（明治41年）石川県山中温泉にて我戸木工所として創業。

木地屋職人として木地師の理念を受け継ぎ、漆器の元となる木地の完成度に拘った漆器を多く作ってきた。

近年では、デザイナーと精度の高いろくろ技法とのコラボレーションにて実用性と芸術性の高さを併せ持つ漆器を作り出している。

グッドデザイン賞（2010）、messe frankfurt・デザインプラス賞（2011）、THE GERMAN DESIGN AWARD・SILVER（2012）など。

www.gatomikio.jp